

編集後記

脳神経血管内治療の分野で多大な貢献をされた Pierre Lasjaunias 先生が急逝されました。偶然、JNET のこの号に彼の施設紹介・留学記を掲載予定でした旭中央病院の Kittipong Srivatanakul 先生には追悼文を追加してもらい、新潟大学の稲川正一先生にも追悼文を寄稿して頂きました。私は直接 Lasjaunias 先生に指導をして頂いたことはありませんが、彼が書いた論文や教科書を何回も読んで勉強をしたり、学会等で、お会いする機会がある毎にいろいろ質問をしたりしました。

エピソードを一つ載せたいと思います。いわゆる脳静脈性血管腫 cerebral venous angioma に関する考えかたは、2つあります。正常の脳静脈構造の extreme variation と考え、developmental venous anomaly (DVA) と呼ぶ Lasjaunias 派 [Neurosurg Rev 9:233, 1986] と静脈の発生過程で event が起こりその後、retrograde fashion に形成された奇形と考え、medullary venous malformation (MVM) と呼ぶ Huang 派 [The Mt Sinai J Med 64:197, 1997] があります。前者をパリ学派、後者をニューヨーク学派とも呼びましょう。お互い相いれない考え方で hot な論争があったようです。これに AV shunt が加わった病変があり、話がさらに混乱気味です。Venous angioma with AV shunt などと表現されます。この後者の病態について Lasjaunias 先生にお聞きしたことがあります。彼は「急性期の虚血で AVM はないけれども、AV shunt が認められるのと同じで、transit time が短いだけで、基本は DVA である」と説明されていました。この後、私は自験例をまとめ、彼のコメントを personal communication として引用して報告しました [Neurosurgery 44:1328, 1999]。最近、韓国からこの病変を venous-predominant parenchymal AVM と呼び、基本的に AVM と考えるべきであるとした報告がありました [J Neurosurg 108:1142, 2008]。これは、Huang 派の medullary venous malformation with an arterial component に近い考え方です。この病変に関しては、私はまだ entity や treatment など controversial であると思います。そういえば、「DVA は脊髄にない」とも Lasjaunias 先生は言っておられました。大脳皮質形成と神経細胞の移動が、medullary vein 形成と関係しており、その形成不全が DVA ではないかと私は思っています。その中で AV shunt を呈する理由は何でしょうか？奥が深いテーマです。我々に種々の病態に対するものの考え方を教えてくださった Lasjaunias 先生のご冥福をお祈りいたします。

編集委員長 小宮山雅樹

JNET Vol.2 No.2 August 2008

2008年8月31日発行 第2巻 第2号
編集・発行 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会
〒102-0084 東京都千代田区二番町 2-1 二番町 TS ビル
株式会社メディカルトリビューン内
TEL : 03-3239-7264 FAX : 03-3239-7225
E-mail : jsnet-admin@umin.ac.jp
Web site : http://www.jsnet.umin.jp/
製作 株式会社メディカ出版
〒564-8580 大阪府吹田市広芝町 18-24
TEL : 06-6385-6931 FAX : 06-6385-9091

本書の著作権は当学会が所有しておりますので、当学会の許諾を得ないで本書の内容を転載刊行することを禁じます。